

# 品川稲門会

<http://www.shinagawa-waseda.net>

## 会長ごあいさつ

品川稲門会会長 塚田成四郎 (S50法)



なか世代交代が進んでいないようです。

昨年9月の総会にて第三代目の会長に就任しました塚田成四郎です。昭和50年法学部卒です。現在は、五反田にて弁護士としております。

品川稲門会は平成2年の秋に当時の小山由丸総長をお迎えして発足しました。初代の会長は故櫻井輝隆氏でした。櫻井会長は物心両面で品川稲門会の基礎固めに多大の貢献をされ、勇退されるまで18年の長きに亘って会長を務められました。第二代目の会長は小林忠雍氏(現相談役)です。小林会長は六年間に亘って会長を務められ、堅実な会運営をされました。

そして、第三代目ですが、先輩会長に比べると若輩者の感は否めません。それでも還暦を過ぎて数年は経っていますが、他の稲門会の会長さんには昭和三十年代卒業の方も多く、なか

今年度は、品川稲門会が校友会の東京都23区支部の支部長区のため、私が東京都23区支部を束ねる支部長に選任されました。当稲門会の勝山宏則さんと中尾公一さんをお願いをして、勝山23区支部幹事長、中尾23区支部事務局長として就任して頂き、3人で23区支部の運営に当たっています。

今年の10月18日(日)には、早稲田キャンパスで稲門祭が開催されます。品川稲門会では大隈庭園に本店をして、焼きそば等の販売をいたします。また東京都23区支部の仕事として、稲門の蔵元から提供された銘酒の頒布会を実施いたします。皆様是非ともお出かけください。

また、来年の3月6日(日)に、早稲田のリーガロイヤルホテルにて東京都23区支部大会を予定しております。品川稲門会の皆様には万障お繰り合わせのうえ多数ご参加くださるようお願いいたします。

最後になりましたが、当品川稲門会の佐々木宏子さん(S42文)は長年に亘って東京都23区

支部の幹事として大変なご活躍をされていたのですが、本年3月6日に病のためご逝去されました。ご葬儀では、東京都23区支部の他の稲門会の幹事さんたち

ちが多数ご列席され、さらに鎌田早稲田大学総長からのご生花も頂きました。茲に謹んで佐々木宏子さんのご冥福をお祈りいたします。

## 幹事長ごあいさつ

品川稲門会幹事長 渡辺寿士 (H2法)



昨年9月の総会において、品川稲門会の3人目の会長に塚田成四郎氏が就任しました。また、渡辺は引き続き幹事長の任を担うことになりました。小林忠雍前会長におかれましては、6年間無事にお務めになりお疲れ様でございました。

また、今年4月より東京都23区支部の支部長区は品川の出番となりました。塚田会長が支部長に就任、勝山宏則氏が支部幹事長に、中尾公一氏を支部事務局長に抜擢し、瑞々しい体制で23区支部を取り仕切っています。来年3月6日には支部大会が予定されています。盛会を期すとともに皆さま多数のご参加を心よりお願い申し上げます。

総会後に新たに役員に加わりました小林義行氏、長久保敏氏、松井博之氏は、それぞれウォーキング、ゴルフ、早慶明ジャズフェスティバルの幹事を担当され、手腕を存分に発揮されています。いずれの行事もますます活性化されていますので、皆さまお気軽にご参加ください。

品川稲門会では、毎月第一火曜日にきゅりあん会議室で役員会を行っています。ご意見やご要望がありましたらご連絡をお願いいたします。

品川稲門会では、毎月第一火曜日にきゅりあん会議室で役員会を行っています。ご意見やご要望がありましたらご連絡をお願いいたします。

# 第24回 品川稲門会総会

渡辺寿士（H2法）

平成26年9月6日、ゆうぼうと「福寿の間」に於いて品川稲門会を開催しました。来賓を含めて51名の参加者がありました。神野吉弘幹事長代行の司会のもと、小林忠雅会長が開会の辞を述べて始まりました。

来賓の伊藤正徳早稲田大学地域担当部長よりご挨拶があり、大学の現況報告を伺いました。続いて議事に入り、小林義行副会長から事業報告と事業計画が、高橋慎司会計幹事から会計報告が、牧絹子監査から監査報

告がなされました。今年度は役員改選の時期に当たり、役員改選案が提出されました。いずれも満場一致で承認され、文末掲載の通り新体制が発足しました。

小林忠雅前会長の退任の挨拶に続いて、塚田成四郎新会長が新任の挨拶を行い、26年5月に亡くなられた故櫻井輝隆名誉会長を偲び、また今後については若手の組織強化を図りたいとの抱負を述べました。勝山宏則幹事に司会がバトン

タッチされて懇親会に移りました。相談役の濱野健品川区長によりの乾杯のご発声があり、会食が始まりました。

元村勝嘉大田稲門会会長と佐藤裕彦副会長のご挨拶に続いて早稲田祭実行委員である森衣里子さんと小山良弘さんによる早稲田祭のPRがありました。宴が進むなか新入会員の紹介があり、自己紹介を受けました。会の後半にはビンゴゲームを行い、皆で持ち寄った景品獲得に一喜一憂し大いに盛り上がりました。

最後に吉澤誠之助理事の指揮のもと校歌を斉唱し、閉会の辞とともにお開きとなりました。

## 品川稲門会役員

- 会長 塚田成四郎
- 副会長 漆邦臣 小林義行
- 中澤郁子 保科義和
- 幹事長 渡辺寿士
- 幹事長代行 神野吉弘
- 副幹事長 勝山宏則 中尾公一
- 木伏源太
- 会計 高橋慎司
- 監査 長谷山純 牧絹子
- 理事 有吉輝恒 飯島節子
- 鈴木治樹 鈴木真澄
- 田中邦彦 築館武雄
- 長久保敏 野末浩司
- 松井博之 吉澤誠之助
- 小林忠雅 濱野健
- 相談役





# 若手校友の集いと勉強会

中尾公二（H5理工）

2014年8月2日(土)開催の「第1回若手校友の集い」の開催を皮切りに、若手校友を中心とした催し「若手交流勉強会」が継続的に行われています。

## ■第1回若手校友の集い

第1回若手校友の集いは、大井町至近のレストランで開催されました。濱野健品川区長はじめ、多くの先輩にもお集まりいただき、70名を超える大盛会となりました。

第一部では、若手校友の沢渡あまねさんによって、「これからの時代の『無理ない』『無駄ない』キャリアと生き方」をテーマとした講演会が行われました。

続く第二部は立食形式のパーティーとなり、交流を深めることができました。

## ■第1回若手交流勉強会

10月15日(木)、第1回若手交流勉強会が品川区立中小企業センターにて開催されました。

品川稲門会会員で建築家の鈴木利美さんに講師をお願いし、「新国立競技場が浮き彫りにした日本の建築及び景観・街並みづくりの問題とは」をテーマでお話いただきました。

その後はグループディスカ

ッションを行い、同テーマにかかるお互いの意見を活発に交換しました。

## ■第2回若手交流勉強会

2015年3月21日(土)には、第2回若手交流勉強会を開催し、大井町きゅりあんの研修室に於いて、教育に関する勉強会を行いました。

講師には、品川区教諭の西村柳一郎会員をお迎えし、「今、日本の教育に何が求められているのか」品川区の現場から見る日本の教育の在り方と未来について」というテーマでお話しいただきました。その後、教育に関する各自の思いをディスカッションしました。

両勉強会とも終了後には近隣の飲食店にて懇親会を行い交流を深めています。

## ■第2回若手校友の集い

来る2015年8月1日(土)には、第2回若手校友の集いを開催予定しています。

品川区在住の全若手校友へのダイレクトメールなどの募集活動を行い、多くの参加者により深い交流の場を提供して若手校友のさらなる盛り上がりを図っていききたいと思います。



# 品川稲門会ゴルフ懇親会

長久保敏 (S45理工)

## ■第53回ゴルフ大会

平成26年10月8日、台風一過の秋晴れの下、会員10名が参加して、成田空港近くのグレンオークスカントリークラブにてゴルフ大会を開催しました。

若手四十歳代から後期高齢者まで、幅広いゴルフ愛好者が集い、珍プレイにも談笑を交えながら和気藹々と、手入れの行き届いた芝生の上を散策。

優勝は小生、長久保敏でB賞も獲得しました。準優勝は住友光男さん、第3位は小林義行さんでした。



プレー終了後の懇親会でも、年齢を感じさせない健啖ぶりを発揮される先輩達と元気浚刺とした中堅若手の交流が一層深まり、次回お花見の頃の再会を期して散会となりました。

プレー終了後の懇親会でも、年齢を感じさせない健啖ぶりを発揮される先輩達と元気浚刺とした中堅若手の交流が一層深まり、次回お花見の頃の再会を期して散会となりました。

## ■第54回ゴルフ大会

平成27年4月28日、初夏を思わせる絶好のゴルフ日和に、第54回ゴルフ大会を、前回同様のグレンオークスカントリークラブで開催しました。

眩しいほどの太陽の光を浴びながら、八重桜の咲き誇る、素晴らしいコースコンディションです。広いグリーンや微妙なアンジュレーションに悩まされながらも、13名のゴルフ愛好家が完走し、和気藹々とプレーを楽しみました。

優勝は小生、長久保敏が連続準優勝は佐藤太一さん、第3位は有吉輝恒さんでした。

本年3月に亡くなった佐々木さんはゴルフ大好きでしたが、友人として参加した木村さんは彼女が乗り移ってラウンドしているのではと思うような、いつもとは違った佐々木さんのスコア？に近い結果でした。

今年初参加の佐藤太一さんは、300ヤード、パー4のコースで、何となんとワンオン！イーグル外しの楽々バーディー。キャディさんもびつくり仰天、まるでテレビで見ると男子プロのようでした。頼もしい若手も加わり、秋のオール早稲田ゴルフ大会での勝利も期待されます。



プレー終了後の懇親会では、表彰のあと軽い食事をとりながら好プレーや珍プレーに話が盛り上がり、午後5時に散会となりました。

次回秋の大会は、9月から10月に、皆吉台カントリークラブで開催する予定です。年長者から若手まで、多くの方々の参加をお待ちしています。

# 第15回早慶明3大学対抗 ジャズフェスティバル

松井博之 (S52政経)

母の日に大森からスウィングの熱い風！毎年、母の日に開催される品川区、大田区の地元密着イベント。ジャズに青春の意気を燃やす現役学生と、それを応援するOB、OGとの手作りイベントも、今年で15回目を迎えました。



爽やかな陽気の5月10日、品川区内の大森ベルポートアトリウムで、1000人超の大観衆の拍手と熱視線のなか、大学ビッグバンドの最高峰、早慶明の華麗な演奏は始まりました。

明治大学ビッグ・サウンズ・ソサエティ・オーケストラ、慶應義塾大学ライト・ミュージック・ソサエティ、そして、早稲田大学ハイ・ソサエティ・オーケストラが、次々と自慢のサウンドで観衆を魅了します。

優勝が観衆の拍手で決まる緊張の瞬間、一番大きな拍手を浴びたのは、早稲田の通称「ハイソ」でした！

来賓の濱野品川区長、松原大田区長、そして制服姿の小野大森駅長から各大学への賞品授与、地元招待高校の品川女子学院、

小山台高校、東京高校の各生徒代表からの花束贈呈へと続き、イベントは最高潮を迎えました。

第二部はスペシャルゲストとして矢野沙織さんが登場。スタイリッシュかつ、魅惑のサウンドを聴かせてくれました。それをバックで支えるのは3大学ビッグアップメンバールーの見事なコラボ。本イベントならではの心温まるフィナーレです。

普段ジャズに接する機会の少ない方も、コアなジャズファンも、そして母校関係者や地元の方々も、大学や地域、世代の枠を超えていっしょに母の日の夕べを楽しみむ一日となりました。

## 2014年度稲門祭 ホームカミングデー

中澤郁子 (S33教育)

2014年10月19日(日)に、恒例の稲門祭が早大で盛大に行われました。今回のテーマは、「世界に飛び出せ〜Waseda

Lead Ahead Globally」です。

当日は、卒業後15年、25年、35年、45年、50年目の校友が集うホームカミングデーですが、卒業年度に関係なく参加できて、校友と親睦を深める場となります。なかには家族連れで参加している校友もいます。

大隈講堂をはじめ、早大キャンパスのあちこちでは講演会や



音楽会、研究発表会やその他、いろいろな催し物が行われていました。

全国の早稲田大学校友会の協力で行われる早稲田グッズや各地の物産販売会は、その収益を稲門祭奨学金として現役学生に贈るという意義のあるイベントです。そのなかで、品川稲門会は毎年、大隈庭園の一面でテントを張り、幟を立てて、焼きそばをメインに、豚汁と冷たい飲料を販売しています。

始めた頃の数年前は慣れない売り方で苦労しましたが、最近では手際よく仕事ができるようになり、大声を上げながらの売り込みもなかなかのものになりました。焼きそばは肉も野菜もたっぷり出来たとあって、大変評判もよく、にわか店員の私たちも張り切って、いつも在庫は売り尽くし、ささやかですが奨学金の一部に貢献しています。私たちの力で少しでも、母校へ協力お手伝いできるのは嬉しいものです。

2015年の稲門祭は、10月18日の日曜日です。どなたでも歓迎の一日ですから、誘いあつて、ぜひご参加ください。

## ウォーキングとグルメの会

小林義行 (S42理工)

### ■旧江戸城一周

11月2日、前夜の雨も上がり絶好のウォーキング日和となりました。定刻10時には、東京駅丸の内北口に予定メンバーが集まりました。

和田倉噴水公園を抜けて、前日の雨で洗われた木々が映えるお堀端を歩き、皇居大手門へ。窓口で手続きをして皇居東御苑に入場。先ず、天皇陛下傘寿記念特別展の開かれている三の丸尚蔵館を見学しました。

城郭特有の迷路坂を上り、緑



の芝生を横切って天守閣跡では、四方八方を見回して江戸時代の情景を想像しました。

北桔梗門を出て乾門から千鳥が行き交いながら、左手にお堀右手に英国大使館、国立劇場、警視庁などを見て、桜田門を通り、終着の東京会館へ。

参加者16名、思い思いの昼食とお酒で予算も時間もオーバーでしたが、一人の落後者、事故者も無く全員完歩して各人体力に自信を持った一日でした。

### ■ねむの木の庭と庭園美術館へ

5月17日、前日とは打って変わったの五月晴れとなりました。五反田駅前に午前10時、予定者全員集合がし、「ねむの木の庭」へ向かってスタートしました。近年パワースポットとして脚光を浴びています。

行程途中には、薬師寺東京別院、マケドニア共和国大使館、パレスチナ大使公邸、明治天皇家幸池田邸聖蹟、参議院五反田分室、ベラルーシ大使館などがあります。

皇后陛下美智子様ご生家旧正田邸跡である「ねむの木の庭」へ到着。ちょうど満開の薔薇。プリ

ンセスミチコを観賞しに大勢の人が集まっていました。しばし庭内を散策した後、白金台の東京都庭園美術館へ。

昭和初期に朝香宮邸として建てられ、白金迎賓館としても使われましたが、改装された今の美術館も当時のアールデコ様式を正確に留めています。また、日本古来の高度な職人技が随所に残されており、国の重要文化財に内定しています。

開催中の「マスク展」を鑑賞し、庭園を散策の後、プラチナ通り沿いにあるイタリアンレストラン「テラツツア白金」へ。前菜からパスタ、ピザ、ドルチェのランチコースを堪能しました。



# 箱根駅伝応援会

漆邦臣 (S33教育)

第91回東京箱根間往復大学駅伝競走は、青山学院大学が10時間49分27秒の史上新記録で初優勝した。早稲田大学は振るわず、総合5位であった。

1月2日、箱根駅伝往路。早稲田は、1区の中村信一郎選手が11位と出遅れた。2区で高田選手が5位に浮上したものの、その後3区井戸、4区平選手と順位が伸びていかない。

5区の主将山本修平選手は、山上りの活躍を期待されていたが、アキレス腱痛の影響で区間記録10位と振るわなかった。中央学院大に抜かれてしまい、早稲田は往路6位となった。

一方、3位を維持してきた青学大は快調に飛ばして、4区で2位。5区では神野大地選手が小涌園前で逆転を果たした。2位の明治大に4分59秒差をつけての往路優勝である。

1月3日の復路。青学大から9分4秒遅れでの箱根・芦ノ湖をスタートした早稲田は、その6区で三浦雅裕選手が早稲田で今大会唯一の区間賞を獲得し、順位をひとつ上げた。

その後、7区武田、8区安井、9区柳、10区田口選手と櫂をつ

ないで復路3位と健闘したが、総合では5位となって、今年の箱根駅伝は終わった。

今年度で退任することになっていた早大渡辺康幸監督は、任期最後の駅伝を勝利で飾れず、「私の力の無さを感じた」と述べ、「これが今の力だが悔いが残る」と残念がった。

力をつけてきていた青学大ではあったが、総合2位の駒沢大に10分50秒の大差をつけての総合優勝を予想した者は誰一人いなかった。この独走の秘訣は何だろうか、早稲田も大いに学ばなければならぬだろう。

復路がスタートすると、例年の応援会場である品川女子学院のカフェテリアには、多くの稲門会会員が集まる。家族連れで参加のかたも見える。

飲み物と料理が用意されて、大型スクリーンテレビに映る駅伝を観戦しながら、正月の校友懇親会が盛り上がった。

やがて選手たちが通過する頃になると、第一京浜国道沿いの学院玄関前に出て、品川稲門会の幟を立て、早稲田の旗を振りながら母校の校歌熱唱のなか応援を続けた。



# 柴又七福神めぐり

長谷山純 (S53理工)

先輩の方々が七福神めぐりを始めてから、今年は12回目となりました。東京には31もの七福神がありますからあと19年は楽しめる訳です。一番遠いのは、あつ！大島七福神だ！早く行ってみたいものです。

さて1月11日快晴、今年は柴又七福神、うまくいけば寅さんやさくらちゃんに会えるかも、ということと諸先輩方16名のご参加。

寿老人の観藏寺を除けば6か所は結構近場に集中しているのので小一時間で巡ってしまいます。どうしても7か所お参りする方はひとつ手前の高砂駅に集合、とご案内したところ、「縁起物だから」と、10名の方々。大急ぎでお参りし、半時間後には新柴又駅で「あまり縁起を担がない」6名と無事合流。それからはとんとん拍子で巡り、残すは最終の毘沙門天(題経寺)だけ。時刻は未だ1時40分。

(まずいな、昼食会の店に早く着き過ぎる)

予約したのは、そばきり『日曜庵』。いかにも気難しい旦那と感ずる良い女将さんが週末だけしか営業しない。しかも打つ

たそばが無くなったたら店を閉めるという身勝手さ。

「足りなくなったらまた打てよ」と言いたい。でも年末にカミサンと下見に行き一九八〇円もする鴨汁せいろを食べたらびっくりした。「美味い！」そこで交渉開始。

「年始の11日に15人ほどで」

「一番忙しい日だよ」

(平日は休んでいるくせにとは言わなかった)

「少々遅めでも良いから」  
「貸し切りには出来ないよ」  
「もちろんです。」

「じゃ、2時過ぎにしてくれ。」  
そして年が明けてから、念のため確認の電話をしたら、「やっぱり2時半、いや3時頃がいいな」

(もう集合時間決めちゃったのに、間が持たないよ)  
どうしよう。朝からこのことで頭が一杯だった。

(腹くるるしかないな)

帝釈天の参道を牛歩、じつくり時間を掛けて見物していただき、境内では「木調ギャラリー見て来てもいい？」という先輩は神様、じゃなかった仏様にも思えたのです。



『日曜庵』到着はびつたり2時半、でも入れてくれない。先輩方が文句も言わず15分ほど待つてくださったのが救いでした。食事は次から次へと、これでもかとばかり出てきたのですが、ほっとし過ぎて覚えているのは、その蕎麦くらい。

一方、漆先生はお疲れのご様子もなく上機嫌、店でバイトしていた女性がなんと品川女子学院の教え子、その後清泉女子大学に進学、30歳未婚！ときたもんだ。この感動の再会劇で、今年もハッピーエンドとなったのであります。

# 23区支部大会

勝山宏則 (H2理工)

本年3月8日、2014年度の23区支部大会が浅草ビューホテルにて開催され、284名が参加した。わが品川稲門会からは16名が参加登録した。

第一部では、早稲田大学国際学院の樋口清秀教授にご講演いただいた。テーマは「なぜ景気は変動するのであろうか」。講演冒頭には早稲田大学黎明期における台東区とのつながりについてお話をいただいた。それは「早稲田のはじまりは橋場」である。浅草駅から見て東北部、隅田川を白髭橋で渡ったところに橋場という地名がある。そこに土佐出身の小野梓が、会計検査官時代から住んでいた。当時、小野の家は学生のたまり場だった。集団は「鵜渡会」と呼ばれ、この若者たちが、立憲改進黨や東京専門学校設立を支援した。1882年のことである。

第二部懇親会は、浅草らしさをテーマとして演出された。支部長区である台東稲門会の齊藤興平支部長の希望が林英彦支部長代行に見事に受け継がれた。

現在は23区に一つずつ校友会が存在するが、かつては浅草稲門会、銀座稲門会のように地域

に根差した集いであり、その歴史を感じさせる大会であった。浅草組合の芸妓さんたちが登場し、祝儀舞を披露した。また、芸妓さん手作りのWの小旗とともに各テーブルをまわり、記念撮影に参加してくれた。

大会の締めくくりは、早大応援部による楽曲演奏、人生劇場、そして校歌斉唱、エールと続き、参加者全員が団結した。

中締めは2015年度支部長区の品川稲門会、塚田成四郎会長の挨拶により閉会となった。





# 品川稲門会 新年会

有吉輝恒 (S39教育)

平成27年2月14日、ゆうぼうと「福寿の間」に於いて品川稲門会新年会が開催されました。

塚田成四郎会長の新年挨拶から始まりましたが、品川稲門会の発展を期すべく抱負が述べられました。

続いてご来賓の元村勝嘉大田稲門会会長からご挨拶があり、ジャズフェスティバルをはじめ様々な面で協力し合いたいと述べられました。

当会相談役の濱野健品川区長により乾杯のご発声をいただいた後は、しばしの歓談タイムを取りました。料理飲み物は十分に用意されています。

司会が、神野吉弘幹事長代行から勝山宏則副幹事長に交替し、アトラクション「櫻村ひろ子さんのステージ」が始まりました。彼女は大田区稲門会の会員で、品川稲門会役員会の強いリクエストにより今回で3度目の出演となりました。

懐かしくも新しいシャンソンを楽しんだ後は、各部会幹事からのお知らせがありました。長久保敏理事からゴルフ懇親会、松井博之理事から早慶明ジャズフェスティバル、小林義行副会

長からウォーキングとグルメの会のご案内を行い、多数の参加を呼びかけました。

また、品川稲門会新規加入の佐藤太一さん(H5理工)等から自己紹介がありました。

宴酣となりましたが、木伏源

太副幹事長の応援指揮のもと、校歌斉唱を行い、保科義和副会長の閉会の辞によってお開きとなりました。

参加者は、ご来賓を含めて41名でした。

